

事業番号 2021 - 復興 - 20 - 0134

令和3年度行政事業レビューシート (復興庁)

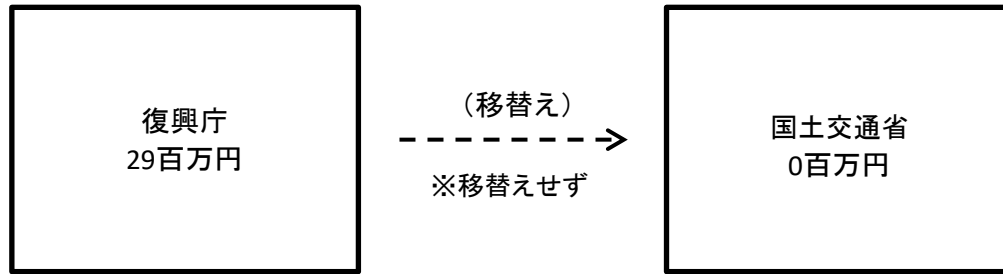
事業名	既設公営住宅等災害復旧事業			担当部局	復興庁	作成責任者			
事業開始年度	平成25年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)	参事官 伊地知 英己			
会計区分	東日本大震災復興特別会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	公営住宅法(昭和26年法律第193号)第8条 激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する 法律(昭和37年法律第150号)第3条			関係する 計画、通知等	公営住宅整備事業等補助要領				
主要政策・施策	-			主要経費	公共事業				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	東日本大震災等において滅失及び著しく損傷した既設の公営住宅、改良住宅及び地域優良賃貸住宅(公共供給型)の再建・補修を支援し、従前入居者の居住の安定確保を図ることを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	東日本大震災において被害を受けた公営住宅等の再建・改修に係る費用等を補助(補助率:公営住宅 5/10~9/10、改良住宅 8/10~9/10、地域優良賃貸住宅(公共供給型) 1/3)。								
実施方法	補助								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	30	20	29	0	42		
		補正予算	-	-	-	0			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	0			
		予備費等	-	-	-	0			
	計	30	20	29	0	42			
	執行額	0	20	0					
執行率(%)	0%	100%	0%						
当初予算+補正予算に対す る執行額の割合(%)	-	100%	-						
令和3・4年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由					
	(目)住宅施設災害復旧事 業費補助	0	42	令和4年度の事業実施が見込まれるため。					
	計	0	42						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	東日本大震災により被災し た公営住宅等の復旧を推 進 (福島県の原発事故に係る 避難指示区域等を除き復 旧済み)	復旧事業を実施した団地数 (累積値)	成果実績	団地	286	288	288	-	-
			目標値	団地	333	295	295	-	295
			達成度	%	85.9	97.6	97.6	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	公営住宅法による被害状況報告及び復旧状況実績調査								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込	
	交付決定を行った団地数	活動実績	団地	0	2	0	0	-	
当初見込み		団地	0	2	1	0	1		
単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込		
	X:執行額(繰越執行額除く) / Y:交付決定を行った団地 数	単位当たり コスト	百万円	0	10	-	-		
	計算式	X/Y		-	20/2	-	-		

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	1. 少子・高齢化等に対応した住生活の安定の確保及び向上の促進											
	施策	1. 居住の安定確保と暮らしやすい居住環境・良質な住宅ストックの形成を図る											
	測定指標	定量的指標					単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
		東日本大震災により被災した公営住宅等の復旧を推進 (福島県の原発事故に係る避難指示区域等を除き復旧済み)	実績値	団地	286	288	288	-	-				
			目標値	団地	333	295	295	-	295				
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係												
	東日本大震災等において滅失または著しく損傷した既設の公営住宅、改良住宅及び地域優良賃貸住宅(公共供給型)の再建・補修を支援することで、東日本大震災等で住宅を失った者等の居住の安定を確保することができる。												
	新経済工程・財政再生計画改訂2020	取組事項	分野:	社会資本整備等		-							
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)					単位	計画開始時 - 年度	2年度	3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-				
目標値			-	-	-	-	-	-					
	達成度	%	-	-	-	-	-						
事業所管部局による点検・改善													
国費投入の必要性	項目					評価	評価に関する説明						
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。					○	東日本大震災により損傷した公営住宅等の原状回復について被災自治体の経済的負担を軽減し、早期に被災者の居住の安定を図ることは、居住者等のニーズを反映したものである。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。					○	公営住宅法等の関係法令に基づき、大規模災害に対応して、低額所得者の居住の安定を確保するため、国が補助を行うべき事業である。						
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。					○	公営住宅法等の関係法令に基づくものであり、既存ストックを活用した入居者の居住の安定が可能のため、優先度の高い事業である。						
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。					-							
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。					-							
	競争性のない随意契約となったものはないか。					-							
	受益者との負担関係は妥当であるか。					-							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。					-							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。					-							
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					-							
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)					○	団地付近の上下水道等の復旧が遅れた影響により、事業着手することができなかったためであり、理由は妥当である。						
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)					-							
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。					-								
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。					○	東日本大震災で被災した公営住宅等のうち、復旧可能なものはすでに対応済みであり、成果実績は成果目標に見合ったものになっている。						
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。					-							
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。					△	団地付近の上下水道等の復旧が遅れた影響により、事業着手することができなかった。						
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。					○	損傷した公営住宅等の入居者の居住の安定を確保するために活用されている。						

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	地方公共団体の令和2年度の事業見込みを踏まえ、予算を計上したが、上下水道等の復旧事業の遅れにより、当該年度中に事業着手することができず、全額不用となった。	
	改善の方向性	東日本大震災で被災した公営住宅等のうち、復旧可能なものはすでに対応済みであり、残りは避難指示区域の解除見込みを踏まえて、復旧事業を進めることとなる。 各地方公共団体に意向を把握し、復旧の要望があれば、適切に対応していく。	
外部有識者の所見			
対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現状通り	事業の目的である従前入居者の住居の安全確保に向け、引き続き効率性に留意しつつ予算の執行を進めること。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
現状通り	地方公共団体の要望を踏まえ、令和4年度に必要な事業に係る予算を計上する。		
備考			
-			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年度	-		
平成23年度	-		
平成24年度	115		
平成25年度	167		
平成26年度	195		
平成27年度	0197		
平成28年度	0181		
平成29年度	147		
平成30年度	137		
令和元年度	復興庁 - 0138		
令和2年度	復興庁 - 0136		

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が)	A.			B.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
計			0	計		0	
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						チェック	

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	-	-	-	-		-	-	

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	-	-	-	-		-	-	

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載						チェック	
--	--	--	--	--	--	------	--

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1	-	-	-	-	-		-	-	